

# ボランティア活動に対する意識差と理解

田中 雅章<sup>1</sup> 田村 禎章

## 要旨

本研究は保育士養成校の体験型授業で地域ボランティア実践に参加した学生の意識を調査し、より良い地域ボランティア実践になるように学生の意識を分析したものである。2020年度の学外活動では、コロナ禍で参加できるイベントは制限されたが、感染防止を第一に配慮したうえでボランティア活動に参加した。学生が参加した活動は地域と連携したイベントが多い。学生が参加できたとしても、行動が制限されたボランティア活動にならざるを得ない状況であった。実践活動は、ウェルカム四日市、赤堀ふれあい祭り、三重こどもの城オレンジリボンイベント、児童館祭りである。その結果、新型コロナの陽性者を1人も出すこともなく無事に終わることができた。

この取り組みは明確な教育的意図を持ち、理想とする保育者になるために必要な技能と知識を学ぶ活動である。このボランティア活動の実践によって参加した学生が保育者としての資質向上を目指しその成長過程を確認する。ボランティア活動に参加した学生の意識に変化が認められた。学生は授業の一環でこの体験型授業の学外活動に参加しているが、ボランティア活動に参加させられている感がある学生が存在し、ボランティア活動をよく理解していない学生がいることが明らかになった。

調査分析の対象者はそれらのイベントに参加し、最後の授業で事後アンケートに回答した学生である。調査方法はGoogle Formsで作成したWebアンケートに学生のスマートフォンからアンケートの回答を入力させた。回収されたアンケートは、内容を精査後Google Spreadsheetの計算式で集計と分析を行った。学生は学外活動に参加することで様々な経験を得ることができた。学生はボランティア活動の理解や取り組み姿勢によって、学生の意識差が明らかになった。今回のアンケートを分析することによって、ボランティア活動に取り組む事前指導の基礎資料にしたいと考える。

**キーワード** 地域連携、イベント、ボランティア

## 1. はじめに

保育所や幼稚園などの保育現場では、季節の行事として夕涼み会などのお祭りのイベントが実施される。保育現場職員や保護者がイベントの企画・準備・運営を担うことが

---

<sup>1</sup> 南山大学

多い。しかし、お祭りのイベントで子供達が楽しめるように環境設定ができるようになるには経験が必要である。そのためには準備や運営の経験を重ね子供達に楽しんでもらおうとする心遣いやコミュニケーション能力を高めるようにトレーニングすることが必要である。

地域ボランティア実践の授業では学生の将来を考え、保育の現場でよく実施される生活発表会の裏方仕事や夕涼み会などのイベント運営が円滑に実施できるように体験を通じてノウハウを得ることである。また、保育の専門家として現場で実践するためには相手の事を考えながらコミュニケーションをとる。常に相手の立場で行動できるように行動できる資質と知識を学ぶ意識の高さが必要である。

ボランティア活動の目的として、1番目は科目名にあるように地域とともに生きることが学ぶ事である。2番目には保育者養成と建学の精神もあるように地域の社会貢献を行うことである。3番目には社会貢献に参加することで豊かな人間性を高めることである。4番目には、保育者として社会性及び自主性を涵養し、地域に貢献し得る有用な人材を育成するなど地域貢献を通して、学生の成長、教育的効果を期待する。地域においてボランティア活動を行うことは、この短大が地域の社会資源のひとつとして機能することになる。この機能を効果的に活用することができれば、学生のボランティア活動が地域と短大をつなぐことができる。

例年ならば学生が参加できたイベントがコロナ禍で次々と中止になった。学生が参加できても制限されたボランティア活動にならざるを得ない状況下での実施であった。本研究ではこの様なWithコロナの条件下での取り組みであったが、学生の成長の変化を明らかにしたいと考えた。学生の体験をリアルタイムで収集できるようにボランティアに参加した感想の収集を学生のスマホから収集できる仕組みを実装した。また、授業の最終に地域ボランティア実践で体験した感想のアンケートを実施した。アンケート結果から学生の意見を分析した。今後の学生指導に生かせるボランティア体験が実施出来るように今回の分析結果を考察する。

## 2. 目的

本研究は、地域ボランティア実践を受講した学生の成長経過や学生の意見を明らかにする。さらにこの実践活動で地域へのボランティア活動として準備したイベントが適切であったのかの検証を試みる。さらに、ボランティア活動の実践によって、参加学生のボランティア活動に対する意識の差を明らかにする。学生がボランティア活動で十分に活動できるように、事前指導の内容を充実させる基礎資料とする。

## 3. 方法

### (1) 参加イベント

学生が参加した4つのイベントの概要を示す

①ウェルカメ四日市 10/4,11/1,12/6の計3回

②赤堀ふれあいまつり 10/22

③子どもの城イベント「心をつなごう！はっぴーオレンジデー」 11/7

④じどうかんまつり2020「自然でつくろう！木であそぼう！ 冬を楽しもう！」 12/13

## (2) 参加学生数

①ウェルカメ四日市 のべ45名（男子5名、女子40名）

②赤堀ふれあいまつり 22名（男子2名、女子20名）

③こどもの城イベント 9名（男子3名、女子6名）

④じどうかんまつり2020 30名（男子1名、女子29名）

## (3) 実践内容

①ウェルカメ四日市 海岸清掃 主催は楠地区まちづくり検討委員会で共催はNPO法人 四日市ウミガメ保存会が実施する四日市市楠町の吉崎海岸の早朝清掃である。四日市ウミガメ保存会は、海岸の清掃活動だけでなく、子どもから高齢者まで幅広く参加する海岸清掃や環境に関する勉強会、ウミガメの産卵調査等を実施する。海岸の環境保護や環境教育を進めている。清掃活動に関しては細かい指導はないものの、清掃後は学生に対する環境学習などの教育的サポートがある。

海岸清掃は、毎月第1日曜日の8時～10時（雨天決行）の午前中のみである。参加者集合確認の後、8時より清掃を始め、9時から海の勉強会を行う内容である。ただ、海岸は危険な作業を伴うこともあるため、参加者はボランティア保険に加入する。

②赤堀ふれあいまつり 主催の赤堀ふれあいまつり実行委員会と赤堀人権のまちづくり推進委員会が「笑顔でつなげるまちづくり」をテーマに地域の子供達が参加する祭りである。運営事務局は四日市市総務部人権プラザ赤堀である。今年は、新型コロナ対応ができないとの理由で、常磐井地区や浜田地区などの近隣の祭りが中止になった。地元の子供達のために感染対策に配慮しながら規模を縮小しての実施することになった。

ふれあいまつりを応援する人々が実行委員会のメンバーになり、運営の企画・催行をしている。学生は市職員のふれあいまつり担当者が決めた人員割り当て表に従い、子ども縁日と短大ブースの運営スタッフとして活動した。子ども縁日の企画・準備はふれあいまつりの実行委員が担った。短大ブースの企画・準備は短大の教員が担当した。学生は企画や内容に関わることもなく、事前に決められたプログラムに従って準備から運営、後片付けまでの活動をした。

例年は、和太鼓演奏や人形劇をはじめ音楽やダンスなどのステージ、お楽しみ大抽選会や、飲食ブースで、子ども縁日コーナーなど幅広い年代の人々が参加し楽しめるようになっていた。今年は混雑するステージイベントと抽選会を全て中止し、

飲食ブース、子ども縁日コーナー、ユマニテク短大（スライム作成）や四日市商業高校、地元企業などのボランティアブースのみとなった。それでも、例年よりもたくさんの参加者がいた。しかし、飲食物を持ち帰る家族が多かったためか会場の滞在時間が短いこともあり、見た感じは例年よりも混雑していないように感じた。新型コロナ対策に対する参加者の意識が高いことで健康の安全が確保できたと言える。

- ③子どもの城イベント「心をつなごう！はっぴ〜オレンジデー」 主催は公立児童館である三重県立みえこどもの城の職員が企画・運営をしている。三重県子ども虐待防止啓発事業オレンジリボンキャンペーンの関連事業として開催される。運営はみえこどもの城の職員が企画・催行をしている。例年は運動会があり、立野汁のふるまいや餅つきがあるが、今年はコロナの影響により運動会や飲食などが全て中止となった。

今年は、「心をつなごう！はっぴ〜オレンジデー」のイベントの一つとして学生によるステージイベントを開催した。演目内容は、手遊びや歌と踊り、絵本の読み聞かせ、紙芝居である。さらに学生の希望により、建物内でバルーンアートを配った。ステージイベントの演目内容は学生が事前に決めて当日まで練習する必要がある。演目の内容から次の演目のチェンジまでの動きをこどもの城の職員が確認を行った。当日のリハーサルに予定した時間は30分であったが学生の事前の練習が不十分で完成度が低かったため、こどもの城の職員の判断で演目の完成度を高めるためにこどもの城の職員が動作を確認しながら1時間ほどリハーサルを行った。ステージイベントの1回目は11:15から45分間行い、2回目は13:30から45分間行った。

イベント終了後は全員で会場の後片付けを行い、控室でこどもの城の職員と学生とで反省会を行った。こどもの城の職員から学生の動きについて適切なアドバイスがあった。その後、学生はこどもの城の施設見学を行った。

- ④じどうかんまつり2020「自然でつくろう！木であそぼう！冬を楽しもう！」 主催は四日市市内にある北部児童館、こどもの家、塩浜児童館、こども子育て交流プラザの4児童館が合同イベントとして企画・運営をしている。例年は事前申し込みの必要がなかったが、今年は新型コロナ対策として事前申込者だけが参加できる方法になった。各ブースには児童館の職員ついておりボランティアとして参加する学生に適切な指導をしてくれた。じどうかんまつりは、午前の部10:00～12:00と午後の部13:00～15:00の2部制であり、262名の子供達が参加した。学生はボランティアとして半日あるいは1日の参加であった。

#### （4）調査手順

学生のWebによるボランティア参加報告と最後の授業で実施したWebアンケートを行った。設問は選択式と自由記述式を設けた。

#### 4.調査内容

1. 最後の授業時のWebによる回答項目は、次の①～②②」である。この項目はそう思うから、そう思わないまでの5段階で、評価を行った。

- ①ボランティアの大切さが、分かった
- ②ボランティアの大変さが、分かった
- ③ボランティアは体力が必要だと思った
- ④ボランティアは事前の準備が必要だと思った
- ⑤ボランティアはタオルなどの持ち物が必要だと思った
- ⑥ボランティアは、良い経験になった
- ⑦ボランティアは、自分を成長させた
- ⑧ボランティア経験は、仕事に役立つと思った
- ⑨積極的に手伝うことができた
- ⑩現場で、何をしたら良いのか分からなかった
- ⑪手つだうことが、おっくうだった
- ⑫子供と接するのは、難しいと思った
- ⑬相手の立場に立って行動するのは、難しいと思った
- ⑭ボランティアの内容を家族に話した
- ⑮2年生になってもボランティアに参加したい
- ⑯将来、ボランティアに参加したい
- ⑰ボランティアが、予想した内容と違うことがあった
- ⑱ボランティアで得るものはあまりなかった
- ⑲ボランティアに参加したくないと思ったことがある
- ⑳ボランティアは体が疲れる
- ㉑もっと楽なボランティアなら参加したい
- ㉒できればボランティアは参加したくない

#### 5.結果と考察

##### (1) ボランティア参加後の分析結果

ボランティア活動に参加した学生がボランティア活動をどう思っているのかを分析するために、全体の回答と積極群と消極群の2群に分けて分析することにした。2群に分ける基準は、「⑱ボランティアで得るものはあまりなかった」の質問で、「5. そう思わない」の回答が30名であった。この回答者を積極群とした。「1. そう思う」「2. やや思う」「3. どちらでもない」「4. ややそう思わない」の回答が25名であった。この4項目の回答者を消極群とした。

表1 ボランティア参加場所

ボランティア 場所	全体	積極群	消極群
ウェルカム よっかいち	45 81.8%	24 80.0%	21 84.0%
じどうかんま つり	30 54.5%	21 70.0%	9 36.0%
赤堀 ふれあいまつ り	22 40.0%	10 33.3%	12 48.0%
みえこどもの 城	9 16.4%	3 10.0%	6 24.0%
合計	55 100.0%	30 100.0%	25 100.0%

※ 参加数は延べ人数である。

学生が外部のボランティア活動参加した述べ回数を表1 ボランティア参加場所に示した。全体で1番目に多かったのは、3回実施されたウェルカムよっかいちで81.8%の学生が参加した。2番目に多かったのは午前と午後の二交代で行われたじどうかんまつりで、54.5%の学生が参加した。3番目に多かったのは、赤堀ふれあいまつりで、40.0%の学生が参加した。みえこどもの城は、16.4%の学生が参加した。

積極群で1番目に多かったのは、ウェルカムよっかいちで80.0%の積極群が参加した。2番目に多かったのは、じどうかんまつりで70.0%の積極群が参加した。3番目に多かったのは、赤堀ふれあいまつりで33.3%の積極群が参加した。みえこどもの城は、10.0%の積極群が参加した。消極群で1番目に多かったのは、ウェルカムよっかいちで84.0%の消極群が参加した。2番目に多かったのは、赤堀ふれあいまつりで48.0%の消極群が参加した。3番目に多かったのは、じどうかんまつりで36.0%の消極群が参加した。みえこどもの城は、24.0%の消極群が参加した。

積極群は消極群よりもじどうかんまつりに参加する傾向が高かった。学生がボランティアとして参加したブースには児童館の職員がついており、学生に対して子供への接し方など適切な指導をしてもらうことができた。消極群は積極群よりも赤堀ふれあいまつりに参加する傾向が高かった。学生が参加したブースには一般市民のボランティアがついており、学生は自分で考えながら子供へ接していた。交代ではあったが、学生自身は300円分の買物券をもらい、赤堀ふれあいまつりに参加することができた。また、みえこどもの城はボランティア活動終了後に施設の指導員から反省会があり、無料でプラネタリウムを観覧することができた。

表2-1 ボランティア活動の振り返り（その1）

	①ボランティアの大切さが、 分かった		
	全体	積極群	消極群
5.そう思う	51 92.7%	28 93.3%	23 92.0%
4.ややそう思う	4 7.3%	2 6.7%	2 8.0%
3.どちらでもない	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
2.やや思わない	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
1.思わない	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
合計	55 100.0%	30 100.0%	25 100.0%

①ボランティアの大切さが、分かったの質問で、1番多いのは「そう思う」の92.7%であった。大学の講義でボランティアの話をどれだけ聞いても、実際に現場でボランティア活動を行うと学生はボランティアの大切さを現場の活動で身をもって感じたと思われる。積極群と消極群とでは、大きな違いは認められなかった。

表2-2 ボランティア活動の振り返り（その2）

	②ボランティアの大変さが、 分かった		
	全体	積極群	消極群
5.そう思う	50 90.9%	28 93.3%	22 88.0%
4.ややそう思う	3 5.5%	1 3.3%	2 8.0%
3.どちらでもない	1 1.8%	0 0.0%	1 1.0%
2.やや思わない	1 1.8%	1 3.3%	0 0.0%
1.思わない	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
合計	55 100.0%	30 100.0%	25 100.0%

②ボランティアの大変さが分かったの質問で、1番多いのは「そう思う」の90.9%であった。①と同じように大学の講義でボランティアの話をどれだけ聞いても、実際に現場でのボランティア活動を行うと学生はボランティアの大変さを現場の活動で身をもって感じたと思われる。積極群の「そう思う」が93.3%で、消極群の「そう思う」が88.0%と積極群がやや多かった。

表2-3 ボランティア活動の振り返り（その3）

	③ボランティアは体力が必要だと思った		
	全体	積極群	消極群
5.そう思う	43 78.2%	26 86.7%	17 68.0%
4.ややそう思う	10 18.2%	3 10.0%	7 28.0%
3.どちらでもない	2 3.6%	1 3.3%	1 4.0%
2.やや思わない	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
1.思わない	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
合計	55 100.0%	30 100.0%	25 100.0%

③ボランティアは体力が必要だと思ったの質問で、1番多いのは「そう思う」の78.2%であった。大学の講義でボランティアの話をどれだけ聞いても、実際に現場でのボランティア活動を行ってボランティアは体力が必要であることを現場の活動で身をもって感じたと思われる。積極群の「そう思う」が86.7%であったに対して、消極群の「そう思う」が68.0%であった。積極群は1日がかりのボランティア活動に平均1.13回の参加に対して、消極群は1日がかりのボランティア活動に平均1.08回の参加だった。積極群は1日がかりのボランティア活動に参加しようとする積極性があるのに対して、消極群は体力的に楽な半日だけのボランティアに参加した学生の割合が多かったためと考えられる。

表2-4 ボランティア活動の振り返り（その4）

	④ボランティアは事前の準備が必要だと思った		
	全体	積極群	消極群
5.そう思う	41 74.5%	24 80.0%	17 68.0%
4.ややそう思う	14 25.5%	6 20.0%	8 32.0%
3.どちらでもない	0 0.0%	1 3.3%	0 0.0%
2.やや思わない	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
1.思わない	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
合計	55 100.0%	30 100.0%	25 100.0%

④ボランティアは事前の準備が必要だと思ったの質問で、1番多いのは「そう思う」の74.50%であった。ボランティア活動を行うために事前準備に十分すぎるほどの準備をして参加する。学生は気軽に「先生、～ないですか」と簡単に聞いてくる。準備していれば良いが学校ではないので予想外の準備はない。学生は道具の必要性を感じた時、事



前の準備の必要性を感じたと思われる。積極群の「そう思う」が80.0%であったに対して、消極群の「そう思う」が68.0%であった。積極群は1日がかりのボランティア活動の参加が多かったのに対して、消極群は1日がかりのボランティア活動の参加が積極群よりも少なかった。ボランティアに参加するにはボランティアを行う対象をよく知っておく必要があるが、積極群は長時間にわたるボランティア活動で事前学習の必要性を感じたと思われる。

表2-5 ボランティア活動の振り返り（その5）

	⑤ボランティアは持ち物が必要だと思った		
	全体	積極群	消極群
5.そう思う	36 65.5%	19 63.3%	17 68.0%
4.ややそう思う	18 32.7%	10 33.3%	8 32.0%
3.どちらでもない	1 1.8%	1 3.3%	0 0.0%
2.やや思わない	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
1.思わない	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
合計	55 100.0%	30 100.0%	25 100.0%

⑤ボランティアはタオルなどの持ち物が必要だと思ったの質問で、1番多いのは「そう思う」の65.5%であった。屋外のボランティア活動の時は想像以上の汗をかくことが多い。準備に十分すぎるほどの準備をして参加する。学生は気軽に「先生、～ないですか」と簡単に聞いてくる。学校ではないので、予想外の事前準備はしていない。その他に現場で欲しいと思うものが突発的に発生するため、事前の準備の必要性を感じたと思われる。

積極群の「そう思う」が63.3%であったに対して、消極群の「そう思う」が68.0%であった。このような回答になった原因は、積極群は1日がかりのボランティア活動の参加が多いため持ち物の事前準備をしている学生が多かったと推測される。消極群は1日がかりのボランティア活動の参加が少ないため、持ち物の準備をしてなかった学生が多かったと推測される。

表2-6 ボランティア活動の振り返り（その6）

	⑥ボランティアは、良い経験になった		
	全体	積極群	消極群
5.そう思う	51 92.7%	29 96.7%	22 88.0%
4.ややそう思う	3 5.5%	1 3.3%	2 8.0%
3.どちらでもない	1 1.8%	0 0.0%	1 4.0%
2.やや思わない	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
1.思わない	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
合計	55 100.0%	30 100.0%	25 100.0%

⑥ボランティアは、良い経験になったの質問で、1番多いのは「そう思う」の92.7%であった。大学の講義でボランティアの話をどれだけ聞いても、実際に現場でボランティア活動を行うことによって、学生はボランティア活動の大切さを実体験として理解したと思われる。

積極群の「そう思う」が96.7%であったに対して、消極群の「そう思う」が積極群よりもやや少ない88.0%であった。このような回答になった原因は、積極群は1日がかりのボランティア活動の参加が多いため体験した内容が多く内容も濃いものとなった。消極群は1日がかりのボランティア活動の参加が少ないため学生の体験内容も少なかったためと推測される。

表2-7 ボランティア活動の振り返り（その7）

	⑦ボランティアは、自分を成長させた		
	全体	積極群	消極群
5.そう思う	43 78.2%	26 86.7%	17 68.0%
4.ややそう思う	9 16.4%	4 13.3%	5 20.0%
3.どちらでもない	3 5.5%	0 0.0%	3 12.0%
2.やや思わない	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
1.思わない	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
合計	55 100.0%	30 100.0%	25 100.0%

⑦ボランティアは、自分を成長させたの質問で、1番多いのは「そう思う」の78.2%であった。実際に現場でボランティア活動を行うと学生は授業では得られない多くの体験がある。ボランティアの大切さを現場の活動で身をもって感じたと思われる。

積極群の「そう思う」が86.7%であったに対して、消極群の「そう思う」が積極群よりも少ない68.0%であった。この様な回答になった原因は、積極群は1日がかりのボランティア活動の参加に参加した学生が多くの体験ができたと思われる。消極群は1日がかりのボランティア活動の参加が少ないため学生が多くの体験ができなかったと思われる。

表2-8 ボランティア活動の振り返り（その8）

	⑧ボランティア経験は、仕事に役立つと思った		
	全体	積極群	消極群
5.そう思う	49 89.1%	28 86.7%	21 84.0%
4.ややそう思う	4 7.3%	2 13.3%	2 8.0%
3.どちらでもない	2 3.6%	0 0.0%	2 8.0%
2.やや思わない	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
1.思わない	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
合計	55 100.0%	30 100.0%	25 100.0%

⑧ボランティア経験は、仕事に役立つと思ったの質問で、1番多いのは「そう思う」の89.1%であった。現場で体験するボランティア活動は授業で学習する内容と異なる。現場では毎回同じことは起こりえない。ボランティア体験は授業では得られない多くの経験を感じたと思われる。

積極群の「そう思う」が86.7%であったに対して、消極群の「そう思う」が84.0%であった。積極群と消極群とでは大きな違いは認められなかった。

表2-9 ボランティア活動の振り返り（その9）

	⑨積極的に手伝うことができた		
	全体	積極群	消極群
5.そう思う	37 67.3%	23 76.7%	14 56.0%
4.ややそう思う	15 27.3%	7 23.3%	8 32.0%
3.どちらでもない	3 5.5%	0 0.0%	3 12.0%
2.やや思わない	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
1.思わない	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
合計	55 100.0%	30 100.0%	25 100.0%

⑨積極的に手伝うことができたの質問で、1番多いのは「そう思う」の67.3%であった。普段からボランティア活動の経験があるか、イベントの経験があれば、積極的に行動がとれる。しかし、その経験が少ないと何をすれば良いのか判断できずに傍観者となってしまいがちである。

積極群の「そう思う」が76.7%であったに対して、消極群の「そう思う」が56.0%であった。このような差となった原因は、ボランティア活動に参加した経験や前向きな気持ちによるところが大きい。そのため、自分は何をすれば良いのか戸惑うことも少ない。特に学校教育の一環でボランティア活動に参加するため事前指導を行っている。それをきちんと聞いていたのか、聞いていなかったのか、の違いがボランティア活動の行動を左右する。

表2-10 ボランティア活動の振り返り（その10）

	⑩現場で、何をしたら良いのか分からなかった		
	全体	積極群	消極群
5.そう思う	13 23.6%	4 13.3%	9 36.0%
4.ややそう思う	9 16.4%	4 13.3%	5 20.0%
3.どちらでもない	15 27.3%	6 20.0%	9 36.0%
2.やや思わない	13 23.6%	11 36.7%	2 8.0%
1.思わない	5 9.1%	5 16.7%	0 0.0%
合計	55 100.0%	30 100.0%	25 100.0%

⑩現場で、何をしたら良いのか分からなかったの質問で、1番多いのは「どちらでもな

い」の27.3%であった。これは⑨積極的に手伝うことができたと同様で、普段からボランティア活動の経験があるか、イベントの経験があれば、積極的に行動がとれる。しかし、その経験が少ないと何をすれば良いのか判断できずに傍観者となってしまうがちである。

積極群の「やや思わない」が36.7%であったに対して、消極群の「そう思う」と「どちらでもない」が56.0%であった。この様に大きな差となった原因は、⑨積極的に手伝うことができたと同様で、ボランティア活動に参加した経験があれば、何をすれば良いのか戸惑うことも少ない。特に学校教育の一環でボランティア活動に参加するため事前指導を行っている。それをきちんと聞いていたのか、聞いていなかったのか、の違いがボランティア活動の行動で明らかになった。

表2-11 ボランティア活動の振り返り（その11）

	⑪手つだうことが、おっくうだった		
	全体	積極群	消極群
5.そう思う	11 20.0%	3 10.0%	8 32.0%
4.ややそう思う	4 7.3%	0 0.0%	4 16.0%
3.どちらでもない	5 9.1%	1 3.3%	4 16.0%
2.やや思わない	7 12.7%	2 6.7%	5 20.0%
1.思わない	28 50.9%	24 80.0%	4 16.0%
合計	55 100.0%	30 100.0%	25 100.0%

⑪手つだうことが、おっくうだったの質問で、1番多いのは「思わない」の50.9%であった。ボランティア活動に参加する前に事前にボランティア内容を説明済みである。そのため、半数の学生はそれなりに覚悟して参加しているため、おっくになる事は少なかった。

積極群の「思わない」が80.0%であったに対して、消極群は16.0%であった。また、積極群は「そう思う」が10.0%であったに対して、消極群は32.0%であった。この様に積極群と消極群とで相反する結果になった原因は、⑨積極的に手伝うことができたと同様で、ボランティア活動に対して積極的な気持ちがあるかどうかによってこの様な結果になったと思われる。過去にボランティア活動の経験があれば、作業内容がよく分かっているので作業がおっくうになることも少ない。しかし、その経験が少ないと何をすれば良いのかよく分からないため、作業がおっくうになりがちである。

表2-12 ボランティア活動の振り返り（その12）

	⑫子供と接するのは、難しいと思った		
	全体	積極群	消極群
5.そう思う	16 29.1%	7 23.3%	9 36.0%
4.ややそう思う	15 27.3%	7 23.3%	8 32.0%
3.どちらでもない	11 20.0%	7 23.3%	4 16.0%
2.やや思わない	9 16.4%	6 20.0%	3 12.0%
1.思わない	4 7.3%	3 10.0%	4 4.0%
合計	55 100.0%	30 100.0%	25 100.0%

⑫子供と接するのは、難しいと思ったの質問で、1番多いのは「そう思う」の29.1%であった。回答が全体にばらついている。ボランティア活動に参加する学生は、すでに子供と接する経験がある学生やほとんど子供と接する経験がない学生もいるためである。

積極群は消極群に比べて、子供と接するのは難しいととらえている学生の割合が少ない。その理由として積極群は自ら子供たちと接しようとする意識が高いことがうかがえる。また、ボランティア体験を通じて保育実習や幼稚園実習につなげようとする意識もあると思われる。それに対して、消極群は子供と接するのは好きだが、実際に子供へ声掛けをするタイミングやきっかけ作りができないためであると思われる。

表2-13 ボランティア活動の振り返り（その13）

	⑬相手の立場に立って行動するのは、難しいと思った		
	全体	積極群	消極群
5.そう思う	25 45.5%	11 36.7%	14 56.0%
4.ややそう思う	9 16.4%	6 20.0%	3 12.0%
3.どちらでもない	11 20.0%	5 16.7%	6 24.0%
2.やや思わない	7 12.7%	5 16.7%	2 8.0%
1.思わない	3 5.5%	3 10.0%	0 0.0%
合計	55 100.0%	30 100.0%	25 100.0%

⑬相手の立場に立って行動するのは、難しいと思ったの質問で、1番多いのは「そう思う」の45.5%であった。質問⑫と同様に回答が全体にばらついている。この理由は、他

人の気持ちに寄り添って考えることを経験したか、他人の気持ちに寄り添って考えられる学生とそうでない学生がいるためであると思われる。

積極群は消極群に比べて、相手の立場に立って行動するのは、難しいととらえている学生の割合が少ない。積極群は相手の立場に立って行動した経験が多かったか、相手の立場に立って行動できる学生であると考えられる。それに対して、消極群は子供と接するのは好きだが、実際に相手の立場に立って行動することができないためであると思われる。

表2-14 ボランティア活動の振り返り（その14）

	⑭ボランティアの内容を家族に話した		
	全体	積極群	消極群
5.そう思う	34 61.8%	22 73.3%	12 48.0%
4.ややそう思う	10 18.2%	3 10.0%	7 28.0%
3.どちらでもない	6 10.9%	3 10.0%	3 12.0%
2.やや思わない	3 5.5%	1 3.3%	2 8.0%
1.思わない	2 3.6%	1 3.3%	1 4.0%
合計	55 100.0%	30 100.0%	25 100.0%

⑭ボランティアの内容を家族に話したの質問で、1番多いのは「そう思う」の61.8%であった。この理由は、学生は普段から家族と積極的にコミュニケーションをとっていることがうかがえる。

積極群は消極群に比べて、体験した内容や学んだ内容など家族と積極的にコミュニケーションをとっていることがうかがえる。自分の体験内容を相手が理解できるように説明することになり、このような経験の積み重ねがわかりやすい実習記録の書き方につながる。それに対して、消極群は家族とのコミュニケーションをあまりとっていない傾向が認められた。自分の体験を自分の言葉でコミュニケーションすることが少ないと実習記録で苦勞することが予想される。

表2-15 ボランティア活動の振り返り（その15）

	⑮ 2年生になってもボランティアに参加したい		
	全体	積極群	消極群
5.そう思う	33 60.0%	21 70.0%	12 48.0%
4.ややそう思う	19 18.2%	9 30.0%	10 40.0%
3.どちらでもない	3 10.9%	0 0.0%	3 12.0%
2.やや思わない	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
1.思わない	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
合計	55 100.0%	30 100.0%	25 100.0%

⑮ 2年生になってもボランティアに参加したいの質問で、1番多いのは「そう思う」の60.0%であった。ボランティア活動は、学内の学習と異なり様々な体験をすることができる。同じような活動にインターンシップがあるこれも学生の間に様々な活動を行うことでキャリアデザインを深めることにつながる。

積極群は消極群に比べて、2年生になってもボランティアに参加したい気持ちが高いことがうかがえる。それに対して、消極群は否定的な意見はないものの、積極群ほど前向きにボランティア活動をしたいと考えている学生が少ないことがうかがえた。

表2-16 ボランティア活動の振り返り（その16）

	⑯ 将来、ボランティアに参加したい		
	全体	積極群	消極群
5.そう思う	22 40.0%	17 56.7%	5 20.0%
4.ややそう思う	26 47.3%	12 40.0%	14 56.0%
3.どちらでもない	7 12.7%	1 3.3%	6 24.0%
2.やや思わない	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
1.思わない	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
合計	55 100.0%	30 100.0%	25 100.0%

⑯ 将来、ボランティアに参加したいの質問で、1番多いのは「ややそう思う」の47.3%であった。ボランティア活動に参加することは、普段関わることの無い人と関わる体験が得られるため、人間的に成長することがのぞめる。しかし、学校の授業の一環とことなるため、⑮の質問に比べるとやや積極性に欠けることがうかがえた。



積極群は消極群に比べて、社会人になってもボランティアに参加したい気持ちが高いことがうかがえる。それに対して、消極群は否定的な意見はないものの、積極群ほど前向きにボランティア活動をしたいと考えている学生が少ないことがうかがえた。

表2-17 ボランティア活動の振り返り（その17）

	⑰ボランティアが、予想した内容と違うことがあった		
	全体	積極群	消極群
5.そう思う	8 14.5%	1 3.3%	7 28.0%
4.ややそう思う	14 25.5%	6 20.0%	8 32.0%
3.どちらでもない	18 32.7%	8 26.7%	10 40.0%
2.やや思わない	9 16.4%	9 30.0%	0 0.0%
1.思わない	6 10.9%	6 20.0%	0 0.0%
合計	55 100.0%	30 100.0%	25 100.0%

⑰ボランティアが、予想した内容と違うことがあったの質問で、1番多いのは「どちらでもない」の32.7%であった。ボランティア活動は学内の授業と異なり現場によって予定外の作業が発生することがよくある。その事に対して、受け止めることができるのか、それとも聞いてなかったと思うのかの違いがあったと思われる。特にボランティア経験が少ない学生は予定外の作業や内容に対して、不満につながることもあると思われる。

積極群は消極群に比べて、ボランティア活動が予想どおりだったと思った学生がいるが、消極群にはボランティア活動が予想どおりだったと思った学生は皆無である。事前学習でボランティア活動では予定以外の依頼があることを学習している。積極群は事前説明を聞いており臨機応変に対応できたが、消極群はその説明をよく理解しておらず、突然の依頼がストレスになったと思われる。

表2-18 ボランティア活動の振り返り（その18）

	⑱ボランティアで得るものは あまりなかった		
	全体	積極群	消極群
5.そう思う	4 7.3%	0 0.0%	7 16.0%
4.ややそう思 う	3 5.5%	0 0.0%	3 12.0%
3.どちらでも ない	9 16.4%	0 0.0%	9 36.0%
2.やや思わな い	9 16.4%	0 0.0%	9 36.0%
1.思わない	30 54.5%	30 100.0%	0 0.0%
合計	55 100.0%	30 100.0%	25 100.0%

⑱ボランティアで得るものはあまりなかったの質問で、1番多いのは「思わない」の54.5%であった。ボランティア活動は学内の授業と異なり現場でこそ、貴重な体験として得るものがある。その貴重な体験を得たものか、あるいは予定外の作業ととらえるかは本人次第である。このような体験を前向きにとらえた学生を積極群とした。ボランティア活動で得るものがあまりなかったに肯定的な学生を消極群とした。

積極群は消極群に比べて、ボランティア活動を貴重な体験として前向きにとらえており、自分を成長させたと感じている。それに対して、消極群にはボランティア活動は自分にとって得るものがなかったり、得た感覚が少なかったと思われる。前述の質問と関係するが、消極群は積極的に行動できなかった、あるいは積極的にこうどうしなかった。つまり、自分はどうすればいいのかよくわかっていないためであると思われる。

表2-19 ボランティア活動の振り返り（その19）

	⑲ボランティアに参加したく ないと思ったことがある		
	全体	積極群	消極群
5.そう思う	3 5.5%	0 0.0%	3 12.0%
4.ややそう思 う	5 9.1%	0 0.0%	5 20.0%
3.どちらでも ない	9 16.4%	1 3.3%	8 32.0%
2.やや思わな い	11 20.0%	3 10.0%	8 32.0%
1.思わない	27 49.1%	26 86.7%	1 4.0%
合計	55 100.0%	30 100.0%	25 100.0%

⑭ボランティアに参加したくないと思ったことがあるの質問で、1番多いのは「思わない」の49.1%であった。ボランティア活動は学内の授業と異なり現場で作業をする。時には屋外作業もあるので、事前の準備が必要である。また、初めての現場へ出かけ学校のように慣れた環境ではないため、ボランティア活動への作業で不安な内容もある。その様なことを考えると参加がおっくうになりがちである。

積極群は、ボランティア活動に参加したくないと思ったことは皆無であった。むしろ楽しみにしているようであった。それに対して、消極群は普段の環境と異なりまったく知らない所へ出かけるため、ボランティア活動に参加したくないと思った学生がいたことが分かった。

表2-20 ボランティア活動の振り返り（その20）

	⑯ボランティアは体が疲れる		
	全体	積極群	消極群
5.そう思う	6 10.9%	3 10.0%	3 12.0%
4.ややそう思う	19 34.5%	8 26.7%	11 44.0%
3.どちらでもない	17 30.9%	8 26.7%	9 36.0%
2.やや思わない	6 10.9%	4 13.3%	2 8.0%
1.思わない	7 12.7%	7 23.3%	0 0.0%
合計	55 100.0%	30 100.0%	25 100.0%

⑯ボランティアは体が疲れるの質問で、1番多いのは「ややそう思う」の34.5%であった。ボランティア活動は屋外作業もあり、立ち仕事も多いので体力が必要な作業が多い。普段から体を鍛えて体力があればよいがそうでなければボランティアは務まらない。

積極群は、普段から運動をしており体力的に問題がないように思われた。それに対して、消極群はボランティア活動をするための体力にやや欠ける傾向が認められた。保育の現場では何よりも体力が必要である。普段から体を鍛える重要性が示唆された。

表2-21 ボランティア活動の振り返り（その21）

	㉑もっと楽なボランティアなら参加したい		
	全体	積極群	消極群
5.そう思う	1 1.8%	0 0.0%	1 4.0%
4.ややそう思う	6 10.9%	3 10.0%	3 12.0%
3.どちらでもない	24 43.6%	8 26.7%	16 64.0%
2.やや思わない	11 20.0%	6 20.0%	5 20.0%
1.思わない	13 23.6%	13 43.3%	0 0.0%
合計	55 100.0%	30 100.0%	25 100.0%

㉑もっと楽なボランティアなら参加したいの質問で、1番多いのは「どちらでもない」の43.6%であった。ボランティア活動に程度の差はあるが、楽なボランティア活動はないと考えた方がよい。それは屋外作業があれば、立ち仕事も多いため体力が必要な作業が多いからである。ボランティア活動に参加するのはそれなりに覚悟が必要である。

積極群は消極群に比べ、楽なボランティアに参加したいと考えている学生は少ない。どのような内容であっても積極的に参加したいという意思が伝わってくる。それに対して、消極群は授業のノルマであるボランティア活動に参加するのならば、できるだけ楽なボランティア活動に参加したいと考えが読み取れた。

表2-22 ボランティア活動の振り返り（その22）

	㉒できればボランティアは参加したくない		
	全体	積極群	消極群
5.そう思う	1 1.8%	0 0.0%	1 4.0%
4.ややそう思う	1 1.8%	0 0.0%	1 4.0%
3.どちらでもない	9 16.4%	1 3.3%	8 32.0%
2.やや思わない	13 23.6%	3 10.0%	10 40.0%
1.思わない	31 56.4%	26 86.7%	5 20.0%
合計	55 100.0%	30 100.0%	25 100.0%

㉒できればボランティアは参加したくないの質問で、1番多いのは「思わない」の56.4%であった。ボランティア活動は授業の一環で行われているため、ボランティア活動は強制である。学内とは異なり環境の異なる学外の作業をやりたくない学生もいる

と思われる。ほとんどの学生は経験を深めたいと考えているが、できるだけ楽をして資格を得たいと考えている学生にはストレスとなる活動であると思われる。

積極群は、できればボランティア活動に参加したくないと考える学生は皆無である。苦勞をするからこそ得るものがあると前向きに考えていると思われる。

それに対して、消極群は授業のノルマであるボランティア活動に強制的に参加するのが、苦痛であると思われる。できることなら、ボランティア活動に参加したくないとの考えが読み取れた。

## 5. まとめ

地域ボランティア実践によるボランティア活動は4回目を無事に終えた。新型コロナの影響で各イベントが中止になる中、学生や参加者の安全管理に対処しながら学外のボランティア活動を行った。その結果、1名の感染者を出すこともなくボランティア先に迷惑をかけることもなく無事に終了することができた。

今年度は新型コロナの影響で学生が参加できたボランティア活動は4か所のみであった。今回、参加した学生にとって4か所とも適切なボランティア活動であったと報告済みである。特にこどもの城やじどうかんまつりは専門職員から子供への声掛けの仕方や適切な指導が得られた。これらのイベントに参加できた学生は実習に向けた貴重な体験として得られるものが多かった。

保育士養成課程に入学した全ての学生が、常に高い意識を持ってボランティア活動に取り組んでいるとは限らない。今回の解析では、ボランティア活動に対して、参加学生の意識の違いによってどの様に考えていたのか、あるいはどの様に行動していたのかが明らかになった。意識の低い学生はボランティア活動で積極的に行動することができなかった。子供達に声掛けや接し方がうまくできなかった。さらに準備や撤収で積極的に動くことができなかった。などの行動における反省のコメントが現れた理由が明らかになった。今後は、ボランティア活動に参加する学生に対して事前指導に力を入れるべきである。ボランティア活動は単に参加するだけの活動ではないことを学生に指導する必要があることが明らかになった。今後、適切な事前指導として、次の事をよく説明する必要がある。

1. 普段から基礎体力など体を鍛えておく。
2. ボランティア活動に参加する時は屋外活動もあるので、事前の準備が必要である
3. 現場では何をすればいいのか、考えながら行動をする
4. 子供と接することが目的である。子供の気持ちになって行動する。
5. ボランティア活動は臨機応変な活動である。予定通りの活動にならないことが多い。
6. 普段から家族とコミュニケーションを図り、1日の行動を振り返る時間を作る。

この様なことを配慮しながら学生指導を行った上でボランティア活動に参加させればボランティア活動の効果がより期待できると思われる。

## 参考文献

- (1) 吉岡良介他,幼稚園教育実習後のボランティア活動の意義について, 山梨大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要,pp.201-214,2020.3
- (2) 川上輝昭, 子どもから学ぶ力を育てる保育者養成の試み,名古屋女子大学紀要,pp.127-139,2020.3
- (3) 田中雅章,田村禎章,地域ボランティア実践における学生ボランティアの実践報告,ユマニテク短期大学紀要,Vol.4,pp.35-46,2021.3